



# 紙に命を吹き込み 価値ある商品へと生まれ変わらせる



常務取締役の西川佐織さん



## 株式会社 西川紙業

代表者／西川 満里子  
住 所／京都市南区上鳥羽高島町 3  
T E L／075-661-5591  
<http://nishikawashigyo.com>

事業内容／色紙・短冊、和帖、御朱印帖、ブックケース等の紙工芸品の加工製造

### 技術と知恵を研ぎ澄まし お客様のニーズを具現化

色紙や短冊、御朱印帖、和帖など、多種多様な紙工品を社内で一貫して製造している。例えば、お客様が持ち込んだデザインや色、柄によっては、うまく発色しなかったり、使用していくうちに色落ちしてしまう紙もある。そんな時、紙の特性を知り尽くし、経験豊富な職人が適切な紙や加工方法を提案できることから未然にトラブルを防ぐことができる。「お客様の想いやニーズを具現化するの、私たちの仕事」と常務取締役の

西川佐織さんは話す。

社内でものづくりを完結できる強みを生かし、サンプル品の試作にも積極的に対応している。お客様が思い描いているイメージを形にし、納得感のある提案をするだけでなく、例えば紙の厚みを変えたり、折りのパターンを工夫したりすることで、クオリティはそのままに製造コストを下げられるかもしれない。どんな単価でどれくらいのロット数を作りたいのか…。市場の先まで見据えたきめ細かな提案を行って、お客様の満足を引き出している。

## 手作業と機械加工を 組み合わせ 小ロットから 大量生産まで対応

和モダンブームの人氣が高まる中、増え続ける受注にいかに対応しているか、表紙を仕上げるチーム、中面の紙を貼り合わせるチーム、断裁を受け持つチーム…というように職人が担当する工程を分業化。役割を明確にすることで一人ひとりの意識を高め、ものづくりの現場で直面する様々な課題解決へとつなげている。

例えば、御朱印帖の製造では生麩糊（でんぷん）という澱粉で出来た糊を使うのが一般的だが、乾きにくいのが特徴で次の工程に移るまでにタイムロスが発生する。同社では、独自に開発した糊を使用し乾きの早さを調整しているほか、紙の貼り合わせも一冊ずつではなく、アクリル板に挟んでまとめてプレスすることで短時間に何冊も仕上げることができるようになった。これらはすべて長年経験を積んだ職人の知恵から生まれた創意工夫だという。職人による手作業と機械加工をうまく組み合わせ、「小ロットから大量生産まで対応することが可能となった」と西川さんは笑みをこぼす。



3mmほど均等に貼りつける職人の高い技術を要する糊差し



色・デザイン・素材など、多様な顧客ニーズに対応できる



手際よく且つ丁寧に手づくりされている



### ★ Point.1 想像以上の価値を提供

お客様に言われたことを形にするだけでなく、紙に関する技術と知恵をフル活用し、品質向上はもちろん、コストダウンや新たな商品開発につながる提案を行うことで付加価値を創出。

### ★ Point.2 現場での課題解決力

従来の加工方法にこだわらず、製造効率の向上やロスをなくす改善に職人が中心となって取り組む。現場での課題解決力を磨き高めることで、小ロットから大量生産にまで柔軟に対応。

### ★ Point.3 一貫生産の強みを生かす

初めて注文があった商品のサンプルづくり、急ぎの注文に対する作業工程の組み換え（納期短縮）など、社内でものづくりを完結できる強みを生かして、多様化する受注ニーズにしっかりと応える。

応援  
します!

経営革新・知恵の経営に取り組む企業のご相談にお応えします。  
【相談無料】TEL.075-212-6470  
中小企業経営支援センター知恵産業推進室

## デザイン×技術力で ものづくりの 新たな可能性を追求

数年前、高級感あふれるインビテールシヨーカーの制作に携わった際、和の商品である屏風に使用するという技術が採用された。このことをきっかけに和以外の市場にも拡大、デザインと技術力の掛け合わせで魅力的な商品を発信している。今年3月にみやこめっせで開催される「京都知

恵産業フェア」に初めて出展。ふくらし加工やコハセ留め技法など、今まで当たり前だと思っていた自社の紙工力を積極的に発信することで、ものづくりの新たな可能性を切り拓いていこうと考えている。

紙のプロフェッショナルとしてお客様に寄り添い続ける西川紙業。何十年先も残り、使い続けてもらえる商品を作るために、今日も職人たちの手で紙に新しい命が吹き込まれる。